



## HSMニュース

### 12,000DWT General Cargoの検船業務を実施しました！

4月に続いて5月も、検船業務の依頼を頂きました！

今回も、香港のブローカー殿経由での中国船主殿からの、購入予定船のPre-purchase Inspectionの依頼であり、前回同様泉北港にて検船を実施致しました。

本船は日本の造船所建造で、弊社が得意とする近海船の一般貨物船であり、弊社監督もスムーズに検査を実施する事が出来ました。

今回も、船主殿の買船に伴う良い判断材料の一つとなるべく、しっかりと船のコンディションをチェックし、今後の必要な対応等含めきっちりとレポートを提出させて頂きました！



未だ続く新型コロナウイルスの影響により、まだまだ海外からの来日及び検船の実施が難しい状況が続いている一方で、売買船は比較的活発に行われており、売主は日本の船主で、買主の殆どが中国などの海外船主である事を踏まえると、今後もこのような状況は暫く続くと思われれます。

今後とも、管理会社としての実務経験並びに今までの検船業務の経験も活かし、船主殿の立場に立った適切で丁寧な対応をしていきたいと思っております！

## セミナー報告

### ジャパンP&I 殿のオンラインセミナーを視聴しました！

今回は、日本船主責任相互保険組合(Japan P&I)殿のオンラインセミナーについてご紹介させて頂きます。

現在Japan P&I殿のウェブサイトにて、動画で視聴できるオンラインセミナーが掲載・更新されており、弊社でも利用させて頂いております。

一本一本の動画の時間もそれ程長くなく、時間の空いた時など自分の都合の良い時に視聴できるので非常に便利で利用し易いです。

現在公開されている動画は、「P&I保険の概要」「海難事故のメカニズム」「安全と安心について考える」の3本であり、P&I保険の基本的な部分や事故などに関する弊社実務に繋がる部分であったり、大変参考になりました。

「安全と安心について考える」の動画においては、『「安全」の上に「安心」が載っている』として、『事業者が「安全」を提供し、顧客に「安心」してもらうこと』という部分に非常に感銘を受けました。

今後も新たな動画が公開されたらぜひ視聴していきたいと思っております。



## 当社特製“HSMハイボール”

今回は、当社が特別な時に提供させて頂いております「HSMハイボール」をご紹介しますと思います。

今迄当社が主催もしくは参加させて頂いたゴルフコンペや懇親会などの場に、持参して参加者の皆さまに提供している当社特製のハイボールが大変好評を博しております。

特製と言いましても、基本は只のハイボールですので、そんなに特別変わったところはないのですが、通常より少～し濃いぐらいですかね～

あとはその時の楽しい雰囲気と皆さんの笑顔が隠し味になっているんだと思いますが、いつも非常に美味しく感じます。

作り方はいたって普通です。

よく言われるウイスキーと炭酸水の比率は、1:3～4、というのが多いのですが、HSMハイボールの場合は、大体1:2位の割合になります。濃いと思われるかもしれませんが、作る時は2リットルの水筒につくるので、氷も多めにいれて、長時間楽しめる様に作っております。

ウイスキーを500ml～600ml投入し、炭酸を1.0L～1.2L投入して、残りは氷を投入します。  
(適当ですが、何故かいつも美味しいです)

ウイスキーはもちろん“サントリー角”です。水筒で時間をかけて飲むので炭酸は強炭酸でないといけません(通常弊社ではWilkinson)。

最初の方は少し濃い目に感じますが、氷が少しずつ溶けてきて段々と良い感じになってきて、その時々濃さを楽しむ事が出来ます。

(後半は酔っぱらっているなので、最終的にはあまり味が分かっていないかもしれませんが...)

ゴルフの時などは、この2リットルの水筒を各カートに搭載して、皆さんラウンドしながら楽しんで貰ってます。

現在のコロナが落ち着いて、また皆さんとこの「HSMハイボール」を飲みながらラウンド出来ることを楽しみにしております！



[ 安定の“角” ]



[ HSMハイボールがたっぷり入った水筒 ]

**ピックアップ!** ここでは、私共が目にして気になった記事やニュース等を紹介させて頂きます。  
海運に関する事や海運に関係なくても興味がわく様な内容を色々紹介していきたいと思っております!

私は昔から「これが100%でこれ以上は無い、という様な事は絶対に無い。」「そう思った時点で成長が止まる。」「むしろそう思った時点から衰退していく。」という様な事を口癖の様に言い続けております。

そして、そういう事を周りに言う事で自分自身にもプレッシャーを掛けている様にも思います。

今回の記事は、その様な事に通じる内容になっており私も目に留まったので、皆さんにもご紹介したいと思います!

## 負荷価値論

### ■ 何倍ものパワーになる。

“生まれ持った欲望より、目の前の苦痛から逃れる欲の方が大きい。” と言うような言葉が言われたりします。

転職、独立を経てコンサルタントという仕事をするようになって、しばらく経ってからこの言葉の意味を理解できるようになりました。それも数々のクライアントからご相談を受けてきたからこそ。

たとえば、目の前に借金がドーンとあって、ニッチもサッチも行かなくなる。そうすると、毎日頭を抱え、何をしても借金を返す事ばかりに意識が行ってしまいます。借金から開放されたい・・・と。

これが、苦痛から逃れたいという欲。

それとは別に、あ～どこか海外にでも旅行したいなあとか、可愛い彼女が欲しいなあ～、金持ちになりたいなあ～、なんて思い巡らせる。

これは、生まれもった人間の欲望。

同じ”欲”であってもその性質はまるで違います。

苦痛から開放されたい欲というのは、叶えたいとか、達成したいとかという欲望より、生々しいもので深く大きく、重たいものです。しかし、そういった苦痛から逃れたい欲は、欲望を超える強力なエンジンへと生まれ変わります。

どうということかというと・・・

自分自身に得体の知れない大きさ、重さの負荷がかかっている状態で馬力が何倍にもなります。火事場のクソ力とでもいいでしょうか、追い込まれていけばいくほど、思いも寄らない力を発揮する、というようなことです。この力を自らコントロールし利用しない手はありません。利用することで自分が思っている以上の力を発揮することが可能になるのです。

もう今から10年以上前の話です。親から譲り受けた会社の経営を任されたAさんには、1億5千万以上の借金がありました。ですが、Aさんは頭を抱えて「どうしよう・・・」って悲壮感があるわけでもなく、バイタリティ溢れるめちゃくちゃ前向きな人でした。2年ほどのお付き合いでしたが、とにかく譲り受けた会社を立て直すための施策を講じ、実践と検証を繰り返していきました。そして、借金の完済のメドが経った時、今でも忘れられないことを言ったのです。「借金が無くなるのは嬉しいけど、無くなったから、頑張る拠り所も無くなってしまいそう。燃え尽きちゃうんじゃないかと心配です。」と。持ち前の性格、個人差にもよるところはあるでしょうが、負荷が掛かっている状態と掛かっていない状態とでは、仕事への真剣度合いの次元が格段に違います。また、それに付随して思考の数、発想の数、行動力の量が、変わってきます。つまり、負荷を力にする事で仕事することそのものの価値を何倍にも生み出します。Aさんがまさにそうでした。何かを手に入れたい、というのではなく、何かから逃れたいという経験をし、そこに真っ向から挑もうとすればするだけ、その力というのは知らず知らずのうちに養われていきます。

まさに「**負荷価値**」です。

常に一線で活躍しているビジネスマンは、営業力、企画力、技術力など、ビジネスに必要な力があっても自分に「負荷」を課しています。たとえば、どんなに忙しくても、自分の成長に繋がることや、ビジネスのプラスになることであれば、依頼を受けたり、他人の言葉に耳を傾けますし、どれほど大変な事であっても、自分を高めるために、やる必要もない事にだって、果敢に取り組んでいきます。「今、忙しいから・・・」とか、「今、ちょっと大変なんだよねえ～」って言葉がスグに出て来る人というのは、「忙しさ」という苦痛から逃れたいという欲があるけど、それを上手く活かさきれていない、または、ただただその欲に甘えているだけ、ということになります。

興味があるにはあるけど、やるには面倒臭そう、って思うことでも、「いやっ、ここは1つやってみよう。」とか、引き受けた仕事を通常よりも早いスピードで仕上げてみようとか、与えられた1つの課題に対して、5つも6つも、10個も答えを考え用意しておこう、などといったように常に自分に負荷をかける人。こういう人は負荷を力に変えどんどん成長していきますし、やがては、他を圧倒するくらいの逸材になっていきます。まさに「**負荷価値**」がもたらす「**付加価値**」です。

このことは、コンサルティングをしているとほんとによく見えてきます。現在の状況が、負の状態という人は、負荷が掛かっている状態ですから、その負の状態から抜け出したいという欲を活用すれば、状況は一変してくる可能性は十分にあります。逆に、現在の状況が負の状態でなく、上手く物事が進んでいると言う人は、慢心せず、自ら課題を見出し、負荷をかけていくことで、さらに仕事のクオリティが高まるでしょう。

負荷を味方につけ、付加価値を生む。そんなサイクルがこのコロナ禍を乗り越える一助となります。

## ■ 今日のまとめ

『負荷がかかれば、付加価値をもたらす。』

ということで今回の記事はいかがでしたでしょうか？

未だコロナ禍が続く中、まさにどの業界、業種もある意味負荷がかかっている状態だと思います。

ピンチはチャンスとは簡単には言えないかもしれませんが、この大きな負荷を行動力や思考力、メンタリティに繋げるべくコントロールすることは可能かと思しますので、是非、今だからこそどんどんチャレンジしてみてもどうでしょうか。

冒頭で、「現状維持は後退の始まり」という様な内容に触れましたが、全てのものが刻々と動き、常に変化をしているこの世の中で、私自身も「今うまくいっているから十分だ。と考えて現状に安んずることは、即、後退・衰退につながる。」という事を改めて肝に銘じて、今日より明日、明日より明後日と、日々新たな改善を心掛けていきたいと思いました。

以前、何かのテレビで知った【ウォルトディズニー】の、“ディズニーランドはいつまでも未完成である。”という言葉の思い出しました。



今さら聞けない

## 海運基礎知識 「貨物について (Steel Products)」

今回は、積荷について触れたいと思います。

当社は基本的にBulk Carrier (ばら積み船) やGeneral Cargo Vessel (一般貨物船) などのドライ貨物を運搬する船舶の管理を行っておりますので、今日はその中の鋼材 (Steel Products) について管理会社の視点から少し説明したいと思います。

### 1. 貨物の種類

世界を航海する外航船は多くの種類の貨物を運搬しており、Wet部門においては原油や各種石油製品、LPG・LNGなどのガスがあり、Dry部門においても鋼材、材木、鉄鉱石や石炭及び各種穀物等のバラ積み貨物やコンテナや車両など様々なカーゴがあります。

その中で、日本から輸出する貨物として代表的なものとしては鋼材 (Steel products) があり、当社が管理している船舶でも頻繁に輸送を行う事がありますので、次項より少し詳しく触れたいと思います。

### 2. 鋼材 (Steel Products)

Steel productsにも様々な種類があり、其々の形状や特性も違い、その積み付け方法や固縛方法等も変わってきますので、注意が必要です。



[ Coil ]



[ Slab ]



[ Billet ]



[ Pipe ]

他にもまだまだたくさんあります。

### 3. 鋼材輸送の注意点

#### (1) 荷役前／荷役時の注意点

- 海水混入によるウェットダメージを防ぐ為にもパッキンやクリート等ハッチカバーの点検・状態の確認、入港前のチョークテストやホーステストによる確認も必要になってきます。
- 既に何らかの損傷がある貨物が積載される事もありますので、荷役前・荷役時の貨物の状態を良くチェックする必要があります。
- 貨物の損傷については、荷役時に発見しMates Receipt等の書類にリマークを記入しておかないと、運送中のダメージと見なされて責任を追及される恐れがあるので、荷役中も必ず注意してモニタリングしておく必要があります。
- 貨物の損傷としては、錆、引っ掻き傷、変形、凹み、カバーの損傷等がよくあります。
- 荷役中のステベドアのラフハンドリングによるダメージ (ステベドアダメージ) が発生することもありますので、発見した場合は直ちにレポートを作成して用船者含む関係者へ報告する必要があります。(通常C/P上では24時間or 48時間以内の報告を義務付けております。)
- 運航中に荷崩れを起こしてカーゴダメージに繋がる場合もありますので、積み付け方法や固縛方法、その状態を良くチェックする必要があります。
- 雨天荷役を行う場合などは、事前にRain LOIを取っておく必要があります。また、雨により荷役を中止する場合などはスムーズなハッチの閉鎖が求められます。

次ページへ続く

## (2) 運航中の注意点

- 荷崩れなどを起こさない様に定期的なホールド内の状態確認、及び状況に応じて固縛の追加・調整等を行います。
- 湿気 (moisture) に伴う貨物の発汗 (Sweat) によるウェットダメージを防ぐ為にも、ホールド内及び外気の温度及び湿度のチェック、必要に応じてベンチレーションや除湿器・ヒーターの運転を行います。特に冬季の日本から東南アジアなどの温かい地域への輸送の場合は注意が必要です。

## (3) その他

- ホールド内の清掃を徹底し、前のカーゴの残滓などを残しておかないこと、並びにビルジウエルの清掃や逆止弁の確認を徹底し、ホールド内への海水等の逆流によるウェットダメージを予防します。
- ヘビーコイルの積載を依頼される場合があるので、本船のタンクトップの強度やダンネージ含め積み付け方法等を十分注意して確認しておく必要があります。
- 積み付けについては、それによるスタビリティの計算等も本船で十分に確認しておく必要があります。

## 4. まとめ

積載する貨物には様々な種類があり、それぞれの貨物の特性なども考慮の上注意を払う必要があります。

今回は主に、当社管理船でも取り扱う事の多い鋼材 (Steel products) について触れてきましたが、鋼材の中でも更に色々な種類があり、それぞれの特性に応じた注意点がありますので、乗組員へもそれらを十分に理解して頂き注意を払って運航する様指導教育をする事が重要になってきます。

今後もまた違う貨物についても機会をみて紹介していきたいと思っております。

以上